



有益な話し合いをするには

福井県立武生高等学校

問い 動機

有益な話し合いをするにはどのようなことをすればよいか

「集団」という分野に興味を持ち、それに関連することについて研究したいと考え、「集団の話し合い」に焦点を当てた

目的

有益な話し合いとはどのようなものなのかを明らかにして、今後のグループワークに活かしていくこと

調査方法

- ・先行研究を調べる、外部の方の話を聞く
- ・それらを元に「有益な話し合い」の基準を決める
- ・ファシリテーションを行っている動画を撮る
- ・作成した基準を元にその様子进行评估する

仮説

※有益な話し合いの条件

- ・意見を出しやすい雰囲気をつくる
- ・話がずれていかにないように話し合いの出発点と到達点を明確にし脱線するのを防ぐ

先行研究

- ・ワークショップにおいて、ファシリテーターの役割が重要
- ・人やチームのプロセスに着目しながら体験と学習を結びつけことがファシリテーターの役割
- ・身分や役職、性別、年齢による威力講師を排除する
- ・意見に偏りがある場合や全体の発話量が少ないとき→意見の発散を促進
- ・意見の偏りが少ない場合や全体の発話量が多いとき→意見の収束を促進
- ・相手の経験した事実やそこから生じた感情をしっかりと聴く、受け入れる

考察

- ・自主的な発言が少なかった → 相手を信頼することが重要
- ・参加者の発言数が偏っていた → 中立な立場が大事

結果

有益な話し合いをするためには、全員が安心して意見を言える雰囲気づくりをする必要があり、そのためにファシリテーターは中立な立場を取り続け、相手を信頼することが重要である。

まとめ

今回の研究では、ファシリテーター目線からの「有益な話し合い」をするための条件がわかった

今後の展望

評価対象とした話し合いでは、評価をするのが難しい項目があり、評価の基準を完全に活かすことができなかった
→自分たちで企画した話し合いを行いたい
参加者目線の有益な話し合いについても研究していきたい

参考文献

お世話になった方々

福井大学 教育学部 准教授 遠藤貴広 様 発創デザイン研究室 富永良史 様

中澤秀雄「コモンセンス・ファシリテーターとしての社会学」現象と秩序第4(2016.3)p7
 安斎勇樹 青木翔子「ワークショップ実践者のファシリテーションにおける困難さの認識」日本教育工学会論文誌 2018 p231-242
 清水崇博 井庭崇 『体験学習におけるファシリテーションのパターン分析』社会法人 情報処理学会 vol58 No.24-92
 堀公俊「ファシリテーション入門」 p23-26 p81-88
 大本正義 戸田泰史 植田一博 西田豊明『議論への参加態度と非言語情報に基づくファシリテーションの分析』

011)情報処理学会論文誌 Vol.53 No.12 3659-3670

長畑誠「ファシリテーション再考～『ファシリテーター』から『ファシリテータティブな場作り』へ～」(2015)

明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科 No.11 10-11